

エドウィン・ライマンさん(憂慮する科学者同盟)講演会

通訳: アイリーン・美緒子・スミスさん(グリーン・アクション)

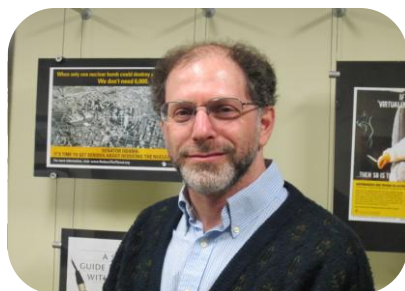
「プルサーマル(MOX燃料)の危険性について」

原子力規制委員会は5月20日、伊方原発3号炉を規制基準に適合したとしました。しかし、この審査書案にはMOX燃料の危険性が検討されていません。その危険性についてなどを、お話しさせていただきます。

日時 2015年7月19日(日) 13:30~16:30 資料代 500円

場所 コムズ5階 会議室5 (松山市三番町6-4-20 電話 089-943-5776)

主催 原発さよなら四国ネットワーク 連絡先 Tel 080-5662-6207(大野)



エドウィン・ライマン

憂慮する科学者同盟(UCS)の世界安全保障プログラム上席研究員。核管理研究所(NCI)元所長。核不拡散、核兵器や放射性物質によるテロ、原子力事故の研究を専門とする。核物質管理学会(INMM)の会員であり、連邦議会や米国原子力規制委員会(NRC)、米国の原子力の将来に関する専門委員会(ブルーリボン委員会)で何度も証言を行っている。共著に福島原発事故の本、Fukushima: The Story of a Nuclear Disaster (The New Press, 2014)がある。



アイリーン・美緒子・スミス

コロンビア大学にて公衆衛生学部・環境科学の修士号取得。1971年から水俣病取材のため水俣に住み、1975年に写真集『MINAMATA』をユージン・スミス氏と出版。1979年、スリーマイル島原発事故調査のため現地に1年間住む。1991年グリーン・アクション設立。高浜原発など、原発再稼働と地域防災計画原子力対策編に関して、多くの問題点を指摘している。

【講演内容】

- ①ウラン燃料より上まわるMOX燃料使用(プルサーマル)の事故の危険性
- ②事故時の増大するリスク
- ③冷却剤喪失事故時に関する実験の不足
- ④使用済MOX燃料貯蔵の問題など